

2024（令和 6）年度 豊橋創造大学 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■保健医療学部理学療法学科

外部評価者：愛知県理学療法士会学習局 卒前教育部部長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
(1)入学者の受け入れについて：適切である 今年度入学生は定員を充足することが困難であったようであるが、次年度募集に向けて体制を強化、SNS での情報発信、保護者へのアピール、ポスターを卒業生の勤務先へ掲示したりと対策がみられる。	入学生確保のため学生募集 WG を設置し、広報委員会とも連携しながら学科全体で学生募集の取り組みを行っている。SNS での情報発信、保護者へのアピール、地域貢献活動やスポーツトレーナーサークルの活動援助などを継続し、学生確保に努めていきたい。
(2)カリキュラムの内容・学修方法・学修 支援・学修成果について：適切である 学科横断カリキュラム「東三河創造入門」の導入は、他学科との交流により愛校心が、卒業後も継続する可能性が高い。	「東三河創造入門」では他学科の学生と同じ課題に取り組むことで幅広い人間性の構築を目指している。ディプロマ・ポリシーに示されているチーム医療の一員としてふさわしい倫理観やコミュニケーション能力などが培われ、理学療法士としての臨床実践へ生かされると考えている。
1 年次の科目を 2 年次で履修することで、理解度が高まり留年生の減少につながると考えられる。	1 年次から専門科目が多くあることが学生の履修状況へ影響していることも危惧されたことから、開講時期について検討を行っている。そのほかにも、学修支援室の利用など学修支援を進めていきたい。
(3)本学の教育活動全般について：適切である 教職員を対象とした研修、職場外での研修により、法令遵守、新たな取り組みへのアイデアにつながると思われる。	教職員に対する FD 活動は今後も継続的に進めていきたい。今年度は、特に国家試験対策に関する教育手法について学科教員全員で共有することで、効果的な学生教育が実施できるよう進めていく。

■保健医療学部看護学科

外部評価者：愛知県看護協会 教育センター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
(1) 入学者の受入れについて 適切である	定員充足率を2年連続し下回っているため、HP改修、オープンキャンパスの充実、教員の高校訪問、入試区分の変更等様々な取り組みを行っています。本学は東三河地域に唯一の看護系大学であり、地域社会に貢献できる人材の育成という大学の教育理念に基づき、特に近隣高校からの学生募集に尽力しております。
(2) カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について 意見要望あり 進級制の影響もあり、留年者が1年生の10～20%、2年生でも数名いるようですが、原因を分析し、成績低迷を理由に留年することがないよう、さらに検討を行って頂きたいと思います。	単位修得ができない留年者は多く、以前よりも大幅に増えています。原因として入学生の学力が低下したことが考えられます。入学生の出身高校が変化しており、より偏差値の低い高校からも多くの学生が入学しています。そのため1年生の学力は幅が広く、一定の学力の学生もいますが、教科書の内容を理解できない学生がみられます。さらに学力が低い学生は学習習慣がないので、自己学修が難しいようです。そのため特に単位修得に直結する科目は、科目責任者の教員が再試験前に補習を行っています。それにより留年者は前年度よりは減っています。また学力の低い学生には学修支援室利用を促してきました。しかし出席率が低いことが問題でした。2023年度からは学修支援室利用についても教務委員会が対策を立て出席率が上がるような取り組みをし、ほぼ予定通り学修支援室を利用することができています。
(3) 本学の教育活動全般について 適切である	2024年度は看護学教育評価機構の分野別評価を受審しています。そのための話し合いと資料作成を通して、必要な規程類の作成整理、看護学科の教育体制の見直し等を行っており、看護学教育の質向上に繋がると考えております。

■経営学部経営学科

外部評価者：豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
(1) 入学者の受け入れについて：適切である 定員数充足率の低下を受けて、インターンシップなど地元企業との密着型・実践的な活動に、より力を入れている。また東三河ビジネスプランコンテストへ毎年、プランを応募しており、賞も受賞している。今後も、さらに社会性を高める実践的な活躍（特に地元企業との密着性など）を露出させ、地域一体となった入学者へのアプローチができるとよい。	実践的教育は、1996 年の本学部開学以来の伝統であり、2025 年度の新カリキュラム移行後も継続してまいります。また、学生を特定の教育の型にはめるのではなく、一人ひとりが持つ関心やポテンシャル(建学の理念に謳う徳)の実現を支援する、学生中心の教育学的アプローチを強化していきます。豊かな教養と専門知識・技能に裏付けされた思考力をもつ社会人の育成を通し、地域社会に貢献していく所存です。
(2)カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について：適切である SDGs 新商品開発プロジェクトなど地元企業との連携により、地域産業発展の一助となる活動も行っている。また東三河をテーマにした学科横断型カリキュラムも導入されており、今後も地域への理解度・密着度を高める活動に期待したい。その他、情報系の資格取得をはじめスキルアップにも取り組まれている。今後はさらにビジネス資格（中小企業診断士・社労士等）取得も学科等で推進されると、より社会適応力・実践力とともに大学の魅力も高まると考える。	PBL 系の授業に関しては、専門教育課程における学生の学習内容と負担の視点から、これまでの成果を継承しつつ、教育体系全体の中に適切に再配置する課題が残されています。今後、最適な方法を慎重に協議する所存です。 また、かねてよりご指摘頂いている中小企業診断士や社労士、情報系の諸資格は社会的に有意であり、学生の経済的自立のためにも有用と考えております。今後は、これまで以上に多様な領域のビジネス資格の取得を奨励し、また、支援策を検討していきたいと思ひます。
(3) 本学の教育活動全般について：適切である。 少子化の中で、知名度の高い国立大学や私大との競合が激化する中で、地域産業の高いポテンシャルを十分に理解し、地域社会に役立つ実践的な教育をポリシーに掲げながら活動を行っている。今後も、さらに地元企業と地域産業の発展・振興につながる地元密着型の大学としての活動に期待したい。	少子化の影響は、2030 年代に入ってからさらに深刻化するものと理解しています。その時においても地域社会において優良な教育機関であり続けられるよう、改めて基礎固めに取り組みたいと思ひます。

■大学院健康科学研究科

外部評価機関（外部評価者）：豊橋市民病院及び豊橋市保健所における本学が委嘱した職員

※大学院健康科学研究科の外部評価を実施する「豊橋創造大学大学院健康科学研究科の教育活動に関する協議会」内で実施

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
入学者の受け入れについて ① 指導にあたる教員の皆様の功績なども外部に発信することで、大学の魅力は伝わるとされる。様々な側面からアプローチし、学生の確保に努めていただきたい。【豊橋市保健所】 ② 大学院に入学した学生や修了生が、志願した理由や目的を把握し、学生受け入れに活かすことができている事例はあるか？【豊橋市保健所】 ③ 入学定員に満たない状況が続いている。オープンラボなどを活用した魅力の発信、大学全体のリブランディング事業を行ったとのことなので、その結果を評価し、学生の確保に努めていただきたい。【豊橋市保健所】 ④ 入学生が増えないことの要因分析ができ、それに対して対応を検討できればと思う。たとえば、セミナーやオープンラボの機会は活用できないか？【豊橋市保健所】 ⑤ HP を拝見したが、卒業生の活躍状況（具体的な就職状況）が見当たらない。もっと PR してはいかがか？【豊橋市保健所】 ⑥ 一定期間働いている中で、あらためて勉強したいという方もおられると思うので、行政機関や関係する会社などにも広く PR していけるのはいかがか？【豊橋市保健所】 ⑦ 貴研究科修士課程を卒業した者が、その後の現場で何にどう活かしているか（知識と技術や問題解決の考え方等）が分かる本	①多様な角度からの情報発信に努めていきたい。 ②具体的に活用した例は把握していない。一方で、大学院入学の目的を、資格（修士号）取得や研究遂行能力の獲得としているケースがほとんどと考えている。 ③定員未充足の状態を解消すべく、情報発信の強化などを通して努力する。 ④ご指摘の通りである。一方で、入学者には意見聴取が可能ですが、本研究科に興味を持たない理由を調べる手段が現時点で見出せていない状況である。 ⑤修了生の活躍（就職）状況について、Website 上で情報発信できるように関係部署と調整する。《昨年度指摘事項》 ⑥情報発信に努めていく。 ⑦修了生アンケート時に研究科での学修が現在の職場で活かされていることを吸い上げ、それを Website 上に掲載できるように、アンケートを工夫したいと

人のコメントなどを掲載することで、希望者が院生となったときの学業へののぞみ方や修士後のイメージを想像できるなどのPRにつなげることはできないか？【豊橋市民病院】 ⑧ 定員割れが継続しており、新たに学部生からの入学推進のためブランド力向上を図る必要がある。MBAのように得られるスキルを明確にし、パッケージ化してはいかがか？広島大学での取り組み(https://reha.hiroshima-u.ac.jp/kensyu1.html)や新潟医療福祉大学理学療法学科(https://www.nuhw-pt.jp/acute_stage.html)などの取り組みは、コース化して得られるスキルをより具体化しており、学部生にも訴求できるのではないか？【豊橋市民病院】 ⑨ 社会人枠に訴求するには通信制の導入もしくはオンライン授業の割合を増やすなど通学コストを下げる努力も必要では。【豊橋市民病院】	考えている。《昨年度指摘事項》 ⑧新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科「高度専門職業人プログラム」は参考になる。実現には、まずは教育スタッフの拡充が必要であり、次のステップとして教育プログラム内容について検討しなければと考えている。《昨年度指摘事項（一部）》 ⑨通学制の大学院修士課程として設置認可が下りているため、基本は通学しての学修となる。しかし、一部の授業は遠隔での対応が可能となっている《昨年度指摘事項》。
学修支援について ① 寮制度などはあるか（生活環境の維持につながるか）？	①本研究科には学生寮などはない。現時点では、寮制度の立ち上げは困難と考えている。寮以外の修学支援制度のアピールに努めていきたいと考えている。
教育活動（教育課程の編成等）について ① 夜間の授業があるのは、社会人としては通学しやすいと感じた。授業によっては、ZOOM などでの参加もできるとなお受講しやすいと感じた。【豊橋市民病院】	①昼夜開講制は今後も堅持していきたい。通学制の大学院修士課程として設置認可が下りているため、基本は通学しての学修となる。しかし、一部の授業は遠隔での対応が可能となっている《昨年度指摘事項》。
プログラム修了後の修了者の状況について ① 大学院に通学することで、将来への活用や取得できる能力が具体的に提示されていることでひとつのきっかけになると感じた。【豊橋市民病院】	① 修了生アンケート時に研究科での学修が現在の職場で活かされていることを吸い上げ、それを Website 上に掲載できるように、アンケートを工夫したいと考えている。《昨年度指摘事項》

教育活動全般について

- ① 昼夜開講制を堅持している教員の努力は評価できる。【豊橋市民病院】
- ② プログラム終了後の修了者の状況について、ホームページ上ではどこに記載されているのかわからなかった。研究科での学びがどのような場で生かされているのか公表することにより、具体的な目標を持ち、貴学で学ぶ意義がわかりやすくなると思います。結果、学生確保につながるのではないかとと思われる。【豊橋市保健所】
- ③ プログラム修了者の具体的な活躍ぶり・大学院教育で得られたことを取り上げて機関紙や Website で公開してはどうか？【豊橋市民病院】
- ④ 看護研究に価値を置いている病院等が、大学院での研究の学びを人材育成と捉え、認定看護師教育課程（日本看護協会）のように教育研修の枠組みの一つとして活用する流れがあると良いのではないか。【豊橋市保健所】
- ⑤ 企業等の課題を連携して研究するプログラムがあれば、より実践的になるのではないか。また、企業、関係団体の課題、連携意思を汲み取る仕組みが必要ではないか。【豊橋市保健所】
- ⑥ 学内だけでなく積極的に学外（他大学や臨床病院）との共同授業・共同研究を進めてみてはいかがか。【豊橋市民病院】
- ⑦ 急性期病院・保健所以外であれば介護保険施設を有する医療法人や行政（長寿介護課等）などの意見を聞いても良いかもしれない。【豊橋市民病院】

- ① 今後も社会人にとって学びやすい環境を堅持すべく、引き続き努力する。《昨年度指摘事項》
- ② 修了生の活躍（就職）状況について、Website 上で情報発信できるように関係部署と相談していく。《昨年度指摘事項》
- ③ 修了生の活躍（就職）状況について、Website 上で情報発信できるように関係部署と相談していく。《昨年度指摘事項》
- ④ 認定看護師などの認定を受けるのは現状では難しい状況である。
- ⑤ 大学院として、学外の関連諸機関との連携強化について検討していく。一方で、大学院組織単位での連携より、教員（研究者）個人ベースでの連携強化が先行すべきとも考えられる。また、本協議会が関連諸機関からの意見を汲み取る仕組みとして考えている。《昨年度指摘事項》
- ⑥ 大学院として、学外の関連諸機関との連携強化について検討していく。一方で、大学院組織単位での連携より、教員（研究者）個人ベースでの連携強化が先行すべきとも考えられる。《昨年度指摘事項》
- ⑦ 大学院として、学外の関連諸機関との連携強化について検討していく。一方で、大学院組織単位での連携より、教員（研究者）個人ベースでの連携強化が先行すべきとも考えられる。《昨年度指摘事項》

⑧ オンライン授業枠を拡充してはいかがか？【豊橋市民病院】	⑧通学制の大学院修士課程として設置認可が下りているため、基本は通学しての学修となる。しかし、一部の授業は遠隔での対応が可能となっている。《<u>昨年度指摘事項</u>》
その他 ① 大学在学中から、特に看護研究に興味を持たせる人材育成が必要ではないかと思う。【豊橋市保健所】 ② 非常に興味深い課程だと思う。協議会の意見に対しても随時、取り組んでいただいていることに感謝します。【豊橋市保健所】 ③ あらためて協議会の意見のまとめを見てみると、市民病院と保健所では、やや視点も異なっており、一緒に協議するほうがあらたな意見が出てくると感じている。合同での開催をあらためて、検討してほしい。【豊橋市保健所】 ④ 海外留学支援制度の利用実績が近年見当たらない。教員の質向上や海外の大学院との協力関係構築のためにも再開すべき。 Web 等を利用した海外施設とのオンラインによる共同研究等も支援制度の範疇に含めると良い。【豊橋市民病院】 ⑤	①看護研究に対する興味向上に努めているが、今後も強化していく。 ②今後もこうした取り組みを堅持していく。 ③基本的には協議会是一堂に会して意見交換する形式が良いと考えている。今年度の開催方式については、アンケートの結果、個別開催となったが、次年度も開催方式については再度アンケートを実施して決定したい。《<u>昨年度指摘事項</u>》 ④説明不足で申し訳ありません。「海外留学支援制度」については、その役割や助成は「競争的研究資金制度」に取り込まれる形となっている。こうしたご意見があることは、経営者サイドに伝え、対外的にわかりやすい制度にすべきかを含めて検討する。《<u>昨年度指摘事項</u>》